

ODA**沖縄脊髄損傷者連合会****しゃりん**
97

編集：沖縄脊髄損傷者連合会 TEL/FAX 098-886-4211

〒903-0804 沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1 西棟2階 ボランティア小規模団体室

E-Mail sekiren@proof.ocn.ne.jp

HomePage <http://www.normanet.ne.jp/~ww500008/>**2012年は飛躍の年にしましょう！****事務局長 枝川 泰 邦**

新年、明けましておめでとうございます。昨年は、全国に目を向けてみますと東日本大震災をはじめ災害に悩まされた年であったように思えます。沖縄県においては一向に前進しない普天間基地の移設問題へのいら立ちからなのか関係お役人や政治家の問題発言などで県民の怒りが鬱積したまま新年を迎えた感じがして不安の残る年明けになっていますが、今年は、被災地の復興が着々と進み、普天間基地移設問題も好転し、平穏な一年であることを願います。

沖脊連にとっては昨年は変革の年になったのでは？と感じています、今まで殆ど活動してこなかった私が申し上げるのはばかなのですが今までの組織形態を見直し、役員をグループ分けし、各グループ長を中心に職務分担することによって一部役員への加重負担を軽減すると、みんなの沖脊連であるとの意識を各人がもつことにより会活動を盛り上げることで長く活動を続けていけるのでは？と思います。また昨年まで脊連事務所で結成の準備を進めてきた「沖縄県障がい者スポーツ協会」が、同じ県福祉センター内に事務所を構え独立した組織として活動をスタートしています。そのことによって障がい者アスリートの皆さんが今後尚一層の活躍に大いなる期待がもてると思います。

最後に私事ですが、昨年の10月3日から毎週（月・火・木・金）と毎月第二水曜日の午前11時～午後4時まで沖脊連事務所に専従事務局長として出勤しています、まだまだ戸惑いの連続ですが、多くの方々の協力もあって徐々に落ち着いてきています。2012年は沖脊連にとって飛躍の年にしたいと思っていますので今後とも皆さんのお力添えをくださいますようお願い申し上げます、年頭のあいさつと致します。

脊髄損傷者沖縄本島各地区相談会報告

去る11月26日（土）～12月10日（土）にかけて沖縄本島各地区で相談会を実施しました。11/26の南部地区相談

会「南部徳洲会病院」では相談利用者はなかったもののピアサポーター6名、車いすアドバイザー1名、集尿器等アドバイザー

1名、リハビリテーション科医師、理学療法士、作業療法士6名の総勢15名が参加し有意義な情報交換ができました。

中部地区相談会においては12/3 沖縄リハビリテーションセンター病院で行い、ピアサポーター5名、車いすアドバイザー、集尿器等アドバイザー、ピアサポートアドバイザーとして医師やリハビリスタッフ、ソーシャルワーカーなど、相談利用者を含め総勢33名が参加しました。

会場の南部徳洲会病院と沖縄リハビリテーションセンター病院には、人体装着型ロボットスーツHALを導入しており、その体験も含めた貴重な催しでありました。本島地区最後の北部地区相談会は12/10名護市障がい者センターで行い役員のピアサポーター以外に、金武町身障協会長で沖脊連会員でもある砂川秀樹さんや自立生

活センター希輝々代表で会員の新垣正輝さん、車いすアドバイザーとして「四輪舎」具志堅正人さん、北部障害者生活支援センターハーモニー相談支援専門員の方々にも協力していただき、総勢14名の参加のもと無事終了しました。

脊髄損傷者相談会事業自体は2月ごろに八重山地区を残すのみとなりましたが最終的に集計、総括し報告したいと思います。



障害者県民会議による事例ヒアリング

去る、11月29日（火）午後2時～県総合福祉センター小規模団体室において障害のある人もない人も暮らしやすい地域づくり県民会議による差別事例などのヒアリングが行なわれました。

これは、障害者の権利擁護の推進を目的とした県条例の制定を検討する重要な取り組みで、沖脊連からは仲根会長、枝川事務局長、横田、大城が参加し障害者差別と思われる事例を報告しました。

事例は事前に会員等から面談、電話、メールにて聴取聞き取りをした下記の内容を基本に詳細に報告しました。

1、身障者専用駐車場について

・一般の利用者の駐車が多くなかなか利用しづらい・スペースが広い専用駐車場で、車両と車両の間に駐車され困ったことがある・空いていても他の車両に横付けされないかが不安でわざわざ遠くに駐車する

ことがある・沖縄県でもパーキングパーミット制度の早期導入を望んでいる

2、身障者専用トイレについて

・一般の利用者が利用していることもあり困る・手すりの位置が高く使いづらいところもある・おむつ交換等で利用している人の時間が長すぎて間に合わなかったことがある・公園の障害者用トイレに鍵がかかっており利用できなかった・飲食店の専用トイレが物置になっていて利用できなかった・スペースが狭く車椅子にドアがあたり閉まらないところがある・トイレのドアがなくカーテンなどで仕切られ不快な思いをした

3、移動/交通手段について

・自動車運転免許取得時、自動車運転装置付き車両を備えた教習所が限られる・自動車改造装置助成の申請時期等で市町村格差があるのはおかしいのでは・タクシーの乗車拒否（手をあげても停まってくれない等）・

短距離でのタクシー乗車時の障害者割引の利用を拒否された・路線バスに乗車できない・歩道に傾斜があり歩行に不安がある・移動支援の利用目的の制限、時間帯の制限があるのは社会参加を阻害するのでは・県道と市道の境界線で歩道が切れており車椅子で通行できない

4、市町村格差等について

・市町村によって、家族と一緒に生活している人と単身世帯でサービス量が違う・膀胱機能障害(膀胱ろう)のストマー装具申請の市町村格差(申請できるところと出来ないところ)

5、福祉サービスについて

・契約しているヘルパー事業所の職員の確保が難しくなり、遠慮してなかなかお願いしづらい・労災者災害補償保険法による介護援助費を受けている人は、なぜ福祉サービスでの居宅介護を受けられないのか、労災介護援助費だけでは足りない(市町村格差)

6、リハビリテーション施設について

県内の総合病院で急性期治療を終え県外のリハビリテーションセンターで機能回復訓練を受け帰郷、その間の生活費や面会に来る家族の負担ははかり知れない、なぜ重度障害者は県内で訓練を受けられないの

か、わざわざ県外の施設に入所しなければならないのかとの意見があった。

7、その他自由意見

・スーパー等における店員の教育について(介護者に話しかける等)・病院等における医療関係者の言葉づかい(子供扱いされる)・銀行等ATM(現金自動預け払い機)の画面の位置が高すぎて利用できない・通院している病院はバリアフリーでも院外薬局がバリアが多く利用できない・日常生活用具(車椅子)の自己負担差額が大きすぎる・初診時特定療養費の病院間格差がある(重度医療費助成を受けていれば無料のところもある)・理髪店で車椅子に座ったままでの理髪を拒否された・大規模な飲食店舗での入店を拒否されたことがある・一般の旅行ツアーに参加した際、移動ペースに合わすことができず不快な思いをした・生活保護受給で病院に不信感を抱き病院を変えようとしてもスムーズにいかない(紹介状が必要)・インフルエンザの予防接種の料金(高齢者との比較)・地域で災害時の要援護者登録をしたものの、だれが支援するのか、避難場所はどこなのか、バリアフリー対応なのかなどまったく知らされていない

第46回沖縄県身体障害者福祉大会及び第51回沖縄県身体障害者福祉展

去る、11月27日(日)宜野湾市民会館大ホールにおいて第46回沖縄県身体障害者福祉大会が開催されました。

この大会は、県内の身体障害者及び関係者が一堂に会し身体障害者の福祉増進及び関係施策の一層の向上と障害者福祉計画に基づく諸施策の具体的な推進を図り、新しい時代に向けた身体障害者の自立と社会参加の促進を図ることを目的とし、「沖縄県障がい者権利条例の早期実現をはかろう」

「沖縄を障害者や障害のない人も共に住みよい社会づくりを目指して頑張ろう」のスローガンのもと開催されました。大会では身体障害者福祉事業功労者や自立更生者などの各種表彰、会場の外では各地の事業所や施設の物品販売「おきしん市場」も開催され盛り上がりを見せました。また、11月24日～27日までの間2階の中央公民館大展示室においては第51回沖縄県身体障害者福祉展も同時開催されました。

障がい者の働く場パワーアップフォーラム

ー仕事のしくみや組織を変えると考え方や行動が変わるー

より幅広い参加者をむかえ各地の実践報告行う場として開催するパワーアップフォーラム。昨年は、全国で1300名を超える方々が参加しました。

2年目となる本年は、仕事の仕組みや組織を変えることで職員の考え方や利用者の意識が変わることに着目します。また、高賃金を実現した人から時代の変化に対応する為に行っている工夫を学び、その工夫の原点となっている考え方や行動を参加者の実践へつなぎます。

障がい者のことをじっくりと考えられる一日としてプログラムを企画しましたので

皆様のご参加をお待ちしております。

日時：平成24年2月10日（金）10時～17時

場所：沖縄産業支援センター那覇市小録1831-1・参加申し込み／お問合わせパワーアップフォーラム事務局（ヤマト福祉財団）電話 03-3248-0691

沖縄開催

障がい者の働く場パワーアップフォーラム
仕事のしくみや組織を変えると考え方や行動が変わる

【参加対象】
障がい者、保護者、本人、企業関係者、障がい者雇用に関心のある方など幅広い方が対象です。

【目的と意義】
平成24年2月10日（金）
沖縄産業支援センター
（那覇市小録1831-1）
TEL: 098-868-4524
アクセス：那覇空港から徒歩約15分・有明バス、延平バス
※ 10時開場

【参加費】
参加費：無料
※ 当日は入場券を配布しますが、お申し込みが済みの場合はお申し込みの住所まで郵送いたします。

【問い合わせ先】
パワーアップフォーラム事務局（ヤマト福祉財団）
〒104-0061東京都中央区銀座2-12-15
電話 03-3248-0691
FAX 03-3542-5165

第24回なんぶトリムマラソン大会

【会場】糸満市西崎陸上競技場(スタート／フィニッシュ) 【種目】20km、10km、5km、車椅子コース(5km)、ファミリーコース(3, 5km)

【表彰】各種目、申告タイムと完走時間の差がもっとも少ない者から3名を表彰する。ただし、同タイムの場合は年齢の高い順、次に申告タイムの短い順に表彰する。特別賞：(ホノルルマラソンや国内マラソン大会への派遣、国内旅行) 最高齢者賞：遠隔地賞：地本最優秀選手賞：パフォーマンス賞

【参加資格】20km、10km高校生以上：車椅子コース(身障者)：ファミリーコース制限なし。【参加料】大人2,500円、子供1,500円【申込期間】2012年2月5日まで



ファミリーコース・3kmコース
車イス・5kmコース



【申込先】なんぶトリムマラソン大会実行委員会事務局
〒900-0029 沖縄県那覇市旭町116番地37自治会館6皆
TEL 098-963-8213
fax 098-860-6020

【参加賞】記念Tシャツ、完走者全員に完走記録証を交付

☆スポーツクラブ大会報告☆

【車椅子陸上クラブ タートルズ】

雨つづきの沖縄でしたが、12月11日(日)は県内外の競技参加者を歓迎するごとく雨が止み、第23回ぎのわん車いすマラソン大会が「共走・共汗・共生」を目指し力いっぱい走りぬけ!!をテーマにハーフマラソン、5Kmマラソン、1.5Kmトリムマラソンの3種類が午前10:00宜野湾海浜公園歓海門前よりスタート致しました。

昨年に引き続き、国内のトップアスリートも集い沖縄県民のみなさんに車いすレーサーのスピードや力強さを披露していただきました。各種目の参加者は、ハーフマラソン54名、5Kmマラソン72名、1.5Kmトリムマラソン137名、沿道の大勢の観客から声援をもらいながら力いっぱい気持ちよく走るレーサーはまさに「共走・共汗・共生」のテーマにかなっていました。

私は、スタートしてしばらくして右折り返し、東へと向かい風の抵抗を受けながら走りはじめ9キロを過ぎるところで折り返し南へ向かう。これまでの向かい風が一転、追い風になる。ここを2回ほど繰り返してゴールとなる中、今年目標にしていた1時間を切れなかったことが残念に思いながらも楽しんだ大会でした。

今後も無理のない程度に、課題を持ってトレーニングを行い、少しでも自己記録を伸ばし楽しみたいと思います。

大会終了後は陸上クラブタートルズ主催の歓迎バーベキュー交流会が宜野湾トロピカルビーチ海浜公園で行われました。参加者は、競技選手、付添、ボランティアを含め約130名の参加者で大いに賑わいました。これもひとえにご協力頂きましたボランティアの方々や付添者の力添えの賜物です。ここに深く感謝申し上げます。

報告：片倉



【SEASIRS】

去った12/3(土),4(日)に、佐賀市で、車椅子バスケの九州・沖縄地区大会が行われ、おかげさまでようやく優勝を飾ることができました。

シーサーズは、前回大会まで6年連続で決勝戦に進んでいきましたが、同じ相手に全て負け続けている状況でした。しかし今回は、春に行われた別の九州大会で優勝できたことで、チームの中では多少の自信も芽生えており、監督が中心となって「まずはしっかり自分達のバスケをする」ということを意識して大会に挑みました。

今大会一番のヤマ場と警戒していたのは、実は決勝戦ではなく、準決勝の佐世保WBC戦でした。大型選手の移籍加入と若手の成長で高さとスピードを兼ね備えており、今一番勢いのあるチームでした。予想通り、準決勝では佐世保WBCとの対戦となりましたが、ここで、これまで取り組んできた攻撃的なディフェンスを徹底し、61-50でなんとか勝つことができました。

決勝戦は、7年連続同じカードとなった「太陽の家スパーズ(大分県) vs シーサーズ」。準決勝と同じく接戦になりましたが、ここでも攻撃的なディフェンスを機能させることができ、59-48で、優勝することができました。これまで、「沖縄県選抜チーム」では3度の優勝がありましたが、クラブチームとしての優勝は、前身の

「シーサークラブ」時代を含めクラブ創設32年目にしてこれが初めてのタイトルです。優勝旗を沖縄に持ち帰ることができたことで、チームを立ち上げて歴史を築いてきた先輩方を始め、長年支えていただいたスタッフや関係者の皆さまにようやく少しは恩返しができるかな、と感じています。本当にたくさんの思いを注いでくださり、ありがとうございました。

また今回も全国大会の切符を手にすることができました。全国大会では、まだまだ成績を残しているとは言えない状況なので、しっかりとレベルアップを図り、九州・沖縄地区の代表として東京で激しく戦ってきます。また変わらぬ応援をどうぞよろしくお願いいたします。

【沖縄ハリケーンズ】

去った12月9日～11日（金～日）、車いすラグビーチームの沖縄ハリケーンズは全国大会でまさかの2連覇を果たしました。ハリケーンズは土曜日の決勝進出決定後の決勝リーグで、疲れからスーパーソニック（宮城）に8点差で敗れましたが、翌日の決勝戦で再戦。前日の敗戦で反省・修正した

作戦を展開して終始リードを保って快勝しました。応援・支援して下さった会員の皆様と関係者、スタッフの皆さんにこの場をお借りしてお礼申し上げます。

【沖縄フェニックス】

1月7～8日、第23回九州車いすツインバスケットボール選手権大会が沖縄市体育館にて開かれました。今大会を沖縄で開催するのは9年ぶりの2度目。今回は時期的に参加が厳しいチームが多くて県外からは5チームが参加し、沖縄はA・Bの2チームの合計7チームが参加しました。

1日目のリーグ戦ではフェニックスAチームが1敗するという波乱もありましたが無事2日目のトーナメント戦に両チームとも進出。決勝は初の沖縄フェニックス同士の対決となり、一時Aチームが猛追を見せるもBチームが大差で勝利し、会場を沸かせました。会員の皆さんも多数応援に駆けつけて来てくれ、その中には懐かしい方々の顔も見られました。

大会開催にあたり、関係者皆さんのお陰で無事大会を終えることができましたことをこの場をお借りしてお礼申し上げます。

平成23年度歳末たすけあい義援金の配分について

赤い羽根共同募金運動の一環として毎年12月1日から1ヶ月間、「みんなで支えあうあったかい地域づくり」のスローガンのもと、平成23年度歳末たすけあい運動が展開され、沖縄連もその義援金の配分を受け「新年会員親睦交流会」を開催します。

県民の心あたたまるとご理解とご協力並びに義援金の募金に対し会員一同深く感謝します。

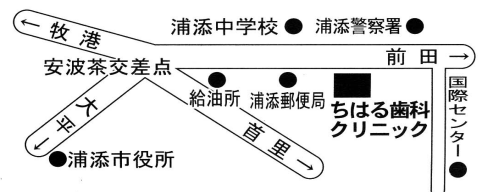
ちはる歯科クリニック
CHIHARU DENTAL CLINIC

浦添市仲間3-3-9

☎(098) 877-6480

FAX (098) 877-9251

E-mail chiharu@ryukyu.ne.jp



訪問歯科診療と口腔ケアを行なっています!

対象者: 在宅療養をしている個人で、通院が不可能な方。
病院、保健施設等に入所(院)されている方、障害者施設に入所の方。